

令和2年度 事務事業総点検シート(1)
[令和元年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	公共交通利用促進事業(おでかけ応援バス)				シート番号	017-018
担当部署名	建築都市	局	交通	部	公共交通	課 評価責任者(課長名) 山下

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	6	まちの魅力向上と、賑わいと交流のまちづくりを進めます	後期実施計画の位置付け
			施策	3	利便性向上に向けた総合的な交通ネットワークの形成	有
	2	事業開始年度	平成 25 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	堺市公共交通利用促進事業(おでかけ応援バス)実施要領			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	高齢者の社会参加を目的に、平成16年度に高齢者社会参加促進事業(おでかけ応援バス)として事業を開始。平成25年度より、公共交通の利用促進を目的に加え、同年7月に利用対象日を月～金曜日(祝休日及び年始を除く)に拡充。平成27年11月よりICカードの導入にあわせて利用対象日を毎日に拡充。平成30年4月から利用日数制限を撤廃。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()				
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	65歳以上の市民				
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	全国的に路線バスの利用者が減少し、廃止される路線がある中、公共交通の利用促進及び維持・活性化を図るとともに、高齢者の社会参加を促進することを目的とする。				
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	市内のほとんどの生活路線を運行しているバス事業者の協力を得て、満65歳以上の市民の方が路線バスを1乗車100円で利用できる「おでかけ応援バス」を実施している。				
10	直接実施以外の主な支出先	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()					
		南海バス株式会社、近鉄バス株式会社					

Ⅲ. 投入量

事業コスト	項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度
			予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算
11	事業費 (a)	千円	362,246	360,855	410,670	410,980	412,612	430,144	456,279
	負担金	千円	362,181	360,831	410,670	410,980	412,612	430,144	456,279
	カード発行に伴う委託料等	千円							
	おでかけ応援利用状況等分析	千円							
	印刷製本	千円	65	24					
	国・府支出金	千円							
	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
	市債	千円							
	その他()	千円							
	一般財源	千円	362,246	360,855	410,670	410,980	412,612	430,144	456,279
	12	人件費 (b)	千円	5,740	5,740	5,002	4,920	4,536	4,860
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	367,986	366,595	415,672	415,900	417,148	435,004	461,199

令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	公共交通利用促進事業(おでかけ応援バス)	シート番号	017-018
-------	----------------------	-------	---------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



[14] 令和元年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15] または [16] に定量的な指標、または定性的な目標を記載

事業の活動実績や成果

令和元年度実績								
活動実績と成果	14	令和元年度は、堺市バス路線マップの更新、9月には市境付近にある市外バス停5カ所を市内バス停扱いとし本制度を充実させたことなどで、おでかけ応援バスの延べ年間利用者数(ICカード移行後)とおでかけ応援カード保有率について前年度を上回り、高齢者の社会参加や公共交通の利用促進につながった。						
	15	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		おでかけ応援バスの延べ年間利用者数(ICカード移行後)	人	目標値	5,500,304	5,675,011	5,753,561	5,844,070
				実績値	5,471,565	5,616,118	5,723,858	
				達成率	99%	99%	99%	
	評価			普通	普通	普通		
	算出方法・設定根拠など		前年度の実績値に新たに65歳となる利用者数等を勘案して算出					
	16	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
		目標値						
		実績値						
達成率								
		評価						

事業の効率性

		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
17	①	おでかけ応援バスの延べ年間利用者数(ICカード移行後)	人	5,471,565	5,616,118	5,723,858
	②	上記①にかかる年間経費	千円	366,595	415,900	435,004
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	67	74	76
		備考(算出についての説明等)				
		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
18	①					
	②	上記①にかかる年間経費	千円			
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位			
		備考(算出についての説明等)				

業績の分析

目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析(その他、関連情報に基づいた分析)	
19	本年度の目標をおおむね達成しており、本事業によりバス利用者が少ない昼間時間帯におでかけ応援バスの利用者が多く全体として利用者が増加し、効率的に運行することによって路線バスの維持活性化につながっている。

- 【分析のチェックポイント】**
- 事業の達成度はどうでしたか。
 - 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありましたか。
 - 資源投入は適切でしたか。
 - 事前想定できない外的要因の影響はありましたか。
 - 有効性は高いですか。低いですか。
 - 効率性は向上していますか。
 - RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありましたか。
 - ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	公共交通利用促進事業(おでかけ応援バス)	シート番号	017-018
-------	----------------------	-------	---------

《V. 点検》

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。

⇒

<input checked="" type="checkbox"/>	確認
-------------------------------------	----

コロナ禍を踏まえた点検(必要性・有効性・効率性)	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input type="checkbox"/> 廃止できる <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 バス路線の維持だけでなく、高齢者の生きがいづくりに寄与するなど、多面的な効果が得られる事業であるため。
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input checked="" type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 バス路線の維持が困難になる。
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input checked="" type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由 これまで利用者のニーズや要望に合わせて制度を拡充してきた経過があるため、事業を縮小することは出来ない。
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input type="checkbox"/> 改善する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善する必要がない <input type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由 おでかけ応援バスは、路線バスを1乗車100円で利用できる制度であり、バスの運行にかかる制度ではないため。
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は■、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は□) ① <input type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input type="checkbox"/> 他部署等との適切な連携・役割分担 関係部署名 () 関連事業名 () ④ <input type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input checked="" type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他()	理由・説明 他都市でも同様のサービスが行われている。 【他都市事例】 大阪市(敬老優待乗車証):70歳以上の市民を対象、1乗車50円の負担 神戸市(敬老優待乗車制度):満70歳以上の市民を対象、1乗車あたり110円を上限とし、小児料金と同額の負担
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input type="checkbox"/> 令和2年度 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降	
		所見 高齢化の進展により、公共交通の主要な利用層が高齢者となる中で、事業を継続することにより、一層の公共交通の利用促進を図る。		